

令和7年度

事業のまとめ

(生涯学習大学・指導者研修等)

令和8年4月



岡山県生涯学習センター

はじめに

岡山県生涯学習センターは、県民の学習ニーズの多様化・高度化や学習活動の広域化等に対応し、生涯学習の場として中心的な役割を担う市町村の公民館等を支援する県の拠点施設として設置され、間もなく30周年を迎えます。

この間、時代は平成から令和へと移り変わり、社会を取り巻く環境の変化とともに、県民の学習環境や学習目的の多様化が進むなど、生涯学習施策をめぐる状況も大きく変化してまいりました。また、本県においても人口減少が急速に進む中、誰一人取り残されることなく、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現や、地域で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進が、これまで以上に求められています。

こうした状況を踏まえ、令和7年度は、生涯にわたり学び、活躍できる環境の整備を使命とし、全ての県民のウェルビーイングの実現を目指し、地域の課題についてそこに住む人自身が協働し解決していく、また、学校や家庭ではできない、子どもの学びの場を創出し、かかわる大人も自身を見つめ何かを学び取っていけるような事業を推進してまいりました。

社会教育人材養成のための研修をはじめ、県民の主体的な学びを支える生涯学習大学や、子供たちの好奇心を育む科学講座の開催など、多様な学習プログラムの提供を行う中で、特に家庭教育支援者スキルアップ講座や岡山県「宇宙の学校[®]」などは、多くの参加者から高い評価を得るとともに、受講後の参加者の意識変容にもポジティブな成果が見られました。また、サテライト会場を設け、オンラインでの研修も受講できるよう、多様な学習方法を提供し、地域格差の是正にも取り組みました。

一方で、昨年度取りまとめた県民への生涯学習に関する意識調査(令和6年度実施)では、参加者ニーズの多様化への対応や地域格差の解消、資源の効率的活用といった課題への更なる対応の必要性が改めて確認できたところであり、今後も事業の企画・実施過程におけるデータの活用を一層推進するとともに、地域の実情に応じた柔軟な学習支援の仕組みづくりに努めてまいります。

この「事業のまとめ」は、毎年度、当センターが実施した各種事業の成果と課題を整理し、今後の事業実施の方向性を明らかにすることを目的として作成しています。

本冊子が、県民の皆様や関係機関の方々に岡山県生涯学習センターの活動状況を御理解いただく一助となるとともに、今後の生涯学習施策の充実に向けた基礎資料として御活用いただければ幸いです。今年度も、引き続き本県の生涯学習の振興に努めてまいりますので、皆様の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年4月

岡山県生涯学習センター所長
所長 細川 誠

目次

はじめに	1
目次	2
I 社会教育人材の養成・活躍機会拡充	
1 基礎研修	
(1) 生涯学習・社会教育施設関係職員研修講座 初任者研修	3
2 実践型指導者養成	
(1) 生涯学習・社会教育施設関係職員研修講座スキルアップ研修 ファシリテーション・コーディネーションスキルアップ講座	5
(2) 生涯学習・社会教育施設関係職員研修講座スキルアップ研修 主体的に参画する住民を育てる事業づくり	7
(3) 高校生×地域 ―思いをカタチにするお手伝いをします―	9
(4) 地域と学校の連携・協働へ向けた研修会―基礎・発展―	11
(5) 就学前の非認知能力育成支援のための人材養成研修会	13
(6) 家庭教育支援者スキルアップ研修～すこやか家庭教育相談員養成講座～	14
3 社会教育主事講習〔B〕	16
II 生涯学習環境の充実	
1 岡山県生涯学習大学・学習情報の提供等	
(1) 岡山県生涯学習大学の仕組み	17
(2) 受講者の状況	18
(ア) 年度別入学者数と修了者数 (イ) 令和7年度単位認定者数	
(3) 開催講座の概要 ココロうごく未来のジブン発見！ ～見て・聞いて・出会って・話して あなたから学ぶことの楽しさを知る～	19
(4) 連携講座の概要	21
(ア) 講座数 (イ) 連携機関一覧	
(5) 生涯学習・社会教育よろず相談事業(市町村コンサルティング)	23
(6) 「ばるネット岡山」の管理と運営	24
(7) 夢育パートナーズ	25
(8) 学習相談	26
(9) ボランティアの活動支援～ばるボランティア～	27
(10) 企画 Lab. の運営	28
(11) 科学キッズフェスティバル	30
(12) ホームページ、SNSによる発信	32
(13) 視聴覚教材の活用と機材の提供	33
2 岡山県公民館連合会 ―研修会―	34
III 生涯学習・社会教育に関する調査研究	
生涯学習に関する県民意識調査	37
IV 科学に関する学習機会の提供	
1 コズミックカレッジ	38
2 岡山県「宇宙の学校」「宇宙の学校指導者セミナー」	39
3 パブリックビューイング	40

I 社会教育人材の養成・活躍機会拡充

1 基礎研修

(1) 生涯学習・社会教育施設関係職員研修講座 初任者研修

- 事業名 生涯学習・社会教育施設関係職員研修講座 初任者研修
- 趣 旨 生涯学習・社会教育推進担当で勤務年数が少ない方、基礎的な知識を学びたい方を対象に、生涯学習・社会教育行政の推進に必要な基礎的知識・技能の研修を行い、行政職員や生涯学習推進者としての資質の向上を図る。また、職員間のネットワークづくりを支援する。
- 実施日 <第1回> 令和7年 5月23日(金) 10:00~16:00
<第2回> 令和7年 10月 3日(金) 13:00~16:00
- 対 象 市町村生涯学習・社会教育担当職員、公民館職員、社会教育施設職員 等
- 参加人数 <第1回> 51名
<第2回> 47名
- 内 容 <第1回> 5月23日(金) (兼 岡山市新任公民館職員研修)

内 容	講 師
【講義】 「基礎から学ぶ生涯学習・社会教育」	大分大学教育マネジメント機構 基盤教育センター 教授 岡田 正彦 氏
【説明】 「岡山県の社会教育行政の現状」	岡山県教育庁生涯学習課 総括副参事 畦田 真介
【ワークショップ】 「地域のミリョク」	岡山市立操山公民館 主任(社会教育主事) 長門 昌子 氏 岡山市立北公民館 主任(社会教育主事) 戸川 直子 氏 岡山市立南公民館 主任(社会教育主事) 藤田 友望 氏

<第2回> 10月 3日(金) (兼 岡山市新任公民館職員研修)

内 容	講 師
【トークセッション】 「行政職員としてのやりがい、社会教育のおもしろさや魅力について」	備前市立日生地域公民館 館長 小橋 智裕 氏 岡山市立御南西公民館 副主査(社会教育主事) 向井 幹子 氏
【グループワーク】 「情報交換、ネットワークづくり」	津山市地域振興部生涯学習課 主事 芳原 茉穂 氏

参加者の声

<第1回>

- ・生涯学習、社会教育の意義を今一度認識し、住民の方のニーズに応えられるような事業をしたいと思った。
- ・自分の地域について見つめ直す良い機会となった。自分の地域の魅力を知り、広め、守る一員でいたい。

<第2回>

- ・何のための活動なのか、社会教育とは何か、根本に立ち戻って、向き合っていくことが大切だと感じた。
- ・自分の常識を他人に押し付けず、相手の意見を最後まで聞き、受け止めることで新しいアイデアが浮かんでくると思った。
- ・一年目で仕事の困り感が大きい中だったので、楽しさ・やりがいを考えられることができて、前向きな気持ちになった。

■成果と課題

第1回の研修では、生涯学習・社会教育に関する基礎知識を習得するとともに、地域の魅力を見直すことの重要性を学ぶことができた。また、第2回では、社会教育の魅力や面白さ、また人や地域とつながることの意義について理解を深めることができた。

これら2回の研修を通じて、社会教育の基礎的な知識や技能の習得について概ね目標を達成することができた。

一方、参加者同士のネットワークづくりに関しては、同じグループのメンバーだけに留まらず、名刺交換や情報交換を行うことができたが、時間が限られていたため、十分な交流には至らなかった。



2 実践型指導者養成

(1) 生涯学習・社会教育関係職員研修講座スキルアップ研修

ファシリテーション・コーディネーションスキルアップ講座

- 事業名 ファシリテーション・コーディネーションスキルアップ講座
- 趣 旨 市町村担当者、公民館職員、地域コーディネーター、ボランティア等の生涯学習・社会教育関係者に必要なスキルの中で、コーディネーションやファシリテーションに焦点を当て、事業推進のキーパーソンとしての意識や能力の向上を図る。また、生涯学習・社会教育関係者のネットワークづくりを図る。
- 実施日 令和7年9月25日(木)・26日(金) 10:00~16:00
- 対 象 市町村行政担当者、公民館職員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、地域おこし協力隊、社会教育委員、NPO関係者 等
- 参加人数 21名
- 講 師 ふるばやしローカルデザイン事務所 代表 古林 拓也 氏
- 内 容 テーマ：「地域で実践！場づくりファシリテーション！
～マイプランからコーディネートまで～」

テーマ	内容
【1日目】 ◆ベースとなる力 「価値観・背景の違いを乗り越える」 ◆ファシリテーションの技法①	・事例研究「闘うタマゴ」 ・場づくりのデザイン ・可視化の技法 ・アイデアを出しまとめ上げる対話型ワークショップ技法
【2日目】 ◆ファシリテーションの技法② ◆コーディネーションの技法① ◆ファシリテーションの技法③ ◆コーディネーションの技法②	・ペアワーク「インタビュー調査」 ・事業の「企画・立ち上げ」 ・個人ワーク「“私”からはじめる」 ・ワールドカフェ「“私”からはじめる」 ・事業の「実行」「終結」



参加者の声

- ・対立構造の仕組みについて、実技を通して実感しながら学ぶことができた。第3者の客観点視点、方向性を整える等の調整役がいることで、納得解に近づくことができると思った。
- ・グラフィックレコーディングを実際に体験してみて、はじめからキレイにまとめようとしすぎるのではなく、落書き気分でどんどん書いていき、後からつなぎ、付け足していけばいいのかなと理解した。

- ・今までは、解凍→拡散までで終わっていたので、収束の技法が学べて、とても勉強になった。今後のワークショップの実践で活かしたい。演習では、多様な考えにもふれることができ、視野を広げることができた。
- ・インタビューは環境のセットアップが大事で、事実ベースから心を深掘り、情緒面をさらに深掘りした。本質的な部分を知るには有効な手段だと身をもって感じた。
- ・様々な方から意見をいただき、自分では考えられないような意見や考えがあった。自分の考えを人に話すことで、ビジョンがより明確になった。事業を成功させるには、探求心と行動力も必要だと感じた。
- ・今まで受けた研修の中でベストワンだった。講義だけではない、全員参加型のワクワク、ドキドキが楽しかった。自分の職場に戻って、今回の学びを少しでも生かしていけたらと思う。
- ・今回の研修を通してその内容もさることながら、この研修をきっかけに繋がった人間関係もこれからの私の活動において貴重なものになると感じた。
- ・すべてのことが一気にできなくても、自分の得意なところから伸ばしていこうと思った。事前の準備・資料を配付するタイミング、細やかに準備されていることにも感動した。

■成果と課題

研修の最初に事例研究「闘うタマゴ」を行うことで、価値観や背景、立場の違いから「分かり合えない」状態を乗り越えるための対話をロールプレイで体験し、関係構築の力について学ぶことができた。ファシリテーションについては、場のデザインについての講義の後、参加者がグループのファシリテーターとなり場づくりの「解凍」フェーズを体験した。可視化の技法も体験し、それを生かしながら、参加者が全体のファシリテーションを行い、「解凍」「拡散」「収束」の3つのフェーズを体験した。また、インタビューを通して情報や意見を引き出すと同時に、自身の事業や地域の課題について自分ごと化を行った。コーディネーションについては、現状の把握・事業の目的の設定・中長期のビジョンの確認等についての講義の後、参加者自身の活動と照らし合わせてマイプランを作成し、ワールドカフェ形式で参加者同士の情報交換を行った。

演習中心の講座であり、受講者の満足度も高く、研修後のアンケートでは、「研修内容を業務に活かすことができそう」と100%が回答した。また、研修の4ヶ月後に実施したアンケートでも研修の内容を業務で活かすことができたという回答が75%であった。

満足度が高く、実践にも活かせる研修会ではあるが、参加希望者が定員に達していないため、来年度は、各種研修に併せて広報するとともに、チラシに昨年度の参加者の感想などを載せ、研修の良さや得られることを伝える。

(2) 生涯学習・社会教育関係職員研修講座スキルアップ研修 主体的に参画する住民を育てる事業づくり

■事業名 主体的に参画する住民を育てる事業づくり

■趣 旨 地域課題を把握し、解決するために地域住民が主体的に関わっていく事業・講座を企画・立案・実践する。その中で、多様な人材を巻き込み、連携していくコーディネータ力など、社会教育に携わる資質の向上を図る。さらに、実践の中での気づきや学びが参加者にも広がり、改めて地域の現状を見つめ、地域活性化に主体的に関わる人材を育成する。

■実施日 <第1回> 令和7年 6月 3日 (火) 10:00~16:00 8名
参加人数 <第2回> 令和7年 7月 10日 (木) 10:00~16:00 6名
<第3回> 令和8年 1月 16日 (金) 13:00~16:00 7名

■対 象 市町村の生涯学習・社会教育関係職員、公民館職員、社会教育士、社会教育主事講習修了者、関連する機関・団体の職員、NPO等

■内 容

回	内容	講師
1	【講義・演習】 「社会教育における地域人材の育成 ～地域住民の主体性を生かす事業計画～」	福岡県立社会教育総合センター 参事兼社会教育振興室長 (社会教育主事) 石津 峰 氏
2	【実践発表1】 「地域を動かす人づくり ～市民の学びと リーダー育成～」 【実践発表2】 「ちょこっと会議で住民の主体性を伸ばす」 【演習】 「地域課題を取り扱った事業計画の立案」	仙台市教育局生涯学習支援センター 主事兼社会教育主事 村田 智朗 氏 福岡市別府公民館 主事 中村 恭子 氏 岡山県生涯学習センター振興課 職員
3	【実践発表・指導・講評】 地域課題を扱った事業実践の発表	福岡県立社会教育総合センター 参事兼社会教育振興室長 (社会教育主事) 石津 峰 氏



参加者の声

< 1回目 >

- ・企画を立てる上でどうしても虫の目になってしまいがちですが、なぜその事業をするのかと立ち返り、鳥の目にもなることで、目的の達成に近づくことができると思った。
- ・以前まで自治体の総合計画や教育計画等考えずに計画を立てていたが、きちんと考えていかないといけないと改めて思った。社会教育主事講習の復習にもなった。
- ・課題解決へ向けて部分的に焦点をあて、プロセスを踏みながら解決方法を考えることが楽しかった。

< 2回目 >

- ・今何をしているかを見失わない夢中になれる研修だった。社会教育の楽しさを知ることができた。
- ・実践発表の事業に余白を作っておくという話がとても印象に残った。住民が参画するしかけづくりの重要性について、より深く理解することができた。
- ・グループで意見を出し合いブラッシュアップできる。それが、この講座の最も良いところで、それを求めて受講にきている。参加者のテーマ設定がおもしろく興味深かった。

< 3回目 >

- ・地域課題の把握、解決に向けた具体的な過程、企画・立案・実践の各段階でのポイントなど、気づきや新たな学びが得られ、実施した講座を見つめ直す機会となった。また、上位計画や目標を意識して企画・立案、評価も考えることで、より効果的な事業を考える力が身についた。
- ・学習者からのアドバイスや評価が実践の励みになる事を改めて再認識することができた。自身の事業立案や実践にのぞむときに、学習目的などを意識しながら取り組むことができ前向きになれた。
- ・実際に有識者の講義や実践者の発表を聞いたり、自分の作成した事業の計画や実践についてフィードバックをもらったりする機会はこの研修以外には無かったので多くの学びがあった。

■成果と課題

1回目は、理想の地域・住民像を考えた後に課題を焦点化したことで、目的・課題が明確になり、事業の全体像について考えられ、取り組むテーマを絞り込むことができた。

2回目の実践発表は、1回目の研修内容や2回目後半の演習をふまえた内容であったため、実践が目的ではなく手段として捉えられるような発表であった。また、1回目の講義内容が実践発表で具体化されたことにより、本研修の繋がりを意識しながら事業計画を作成することができた。

3回目の実践発表は、作成した事業計画の実践を共有する場となった。研修の始めに、講師から発表を聴く視点（事業の目的と方法の整合性・事業の良さと価値・実践の際の課題・評価の観点）について説明があったので、実践発表を聴く際に注目すべきポイントが明確になった。実践発表後には講師から一人ひとりに対して指導講評があったり、実践発表毎に参加者同士が交流する機会を設けたりすることで、自身の実践に対して新たな価値や良さを発見できる場になった。

昨年度の課題であった事業評価についても、事業計画時に事業目標と関連させて考えることができ、実践発表の際には評価項目や評価方法が適切であったか参加者同士で意見交流をすることができた。

(3) 高校生×地域 ―思いをカタチにするお手伝いをします―

■事業名 高校生×地域 ―思いをカタチにするお手伝いをします―

■趣 旨 対象市町村の社会教育・生涯学習関係部署や公民館等（以下、担当者）の担当者においては、高校生を主体とし、社会教育の視点を取り入れ、地域の課題の解決に繋げていく事業をつくるためのコーディネート力、ファシリテート力の向上を図る。

高校生は、地元の地域に興味・関心を持ち、地域を見つめ、地域の中で自分の「やりたい!」「やってみたい!」を実現するための自主性、行動力を身につける。

高校生と担当者だけでなく、地元企業やNPO等、地域の団体とも連携・協働が可能になるようコーディネートし、高校生を主体とした地域の課題解決につながる事業づくりを支援する。

■実 施 県立鴨方高等学校×浅口市中央公民館

■対 象 高校生と一緒に、高校生が主体となる事業を企画・運営したい市町村の社会教育・生涯学習関係部署や公民館等

■内 容

実施日	活動内容	公民館	高校生
10月 2日 (木)	<スタートの会> 課題の掘り起こしと自分たちにできることを考える	1名	3名
10月 9日 (木)	<打合せ> 行うことの大きなテーマを考える	1名	5名
10月 23日 (木)	<打合せ> テーマを基に地域で行う活動を考える	1名	5名
10月 30日 (木)	<打合せ> イベント実施を行う理由を考え、内容を決める	1名	5名
11月 6日 (木)	<打合せ> イベント実施に向けて具体的な内容決め	1名	5名
11月 20日 (木)	<打合せ> イベント実施に向けて具体的な準備	1名	4名
12月 10日 (水)	<実地活動> 指田川のゴミ拾い	1名	4名
12月 11日 (木)	<事前準備> イベントで行う工作の試作	1名	5名
12月 24日 (水)	<事前準備> 当日の流れや準備物について確認	1名	4名
12月 26日 (金)	<実施> 「冬GAKUミニサプリ」への参加・イベント実施	1名	5名



■成果と課題

公民館担当者は「高校生が主体となって、事業に取り組めたと思う。回を進めるごとに高校生同士のコミュニケーションも増えていき、主体的に事業へ取り組む様子も窺えた。自分自身も話の広げ方やファシリテーションの重要性を感じる事ができた。市と協働で事業を行う機会を増やすことで、高校側との連携意識を高めていきたい。」と、高校生を主体とし、地域の課題解決に繋げてい

く事業の推進を支援していきたいと意欲を持っている。また、高校生は、「人とのつながりが多くて素敵だなと思いました。人と関わる楽しさや、一体となる心地良さを感じ、またやりたいと思いました。」「今回の活動で子どももすごく元気で、ゴミの環境問題に対して関心をもっていました。人の暖かみを感じられることができました。これは、浅口市の魅力だと思います。」と、自身が主体となって企画・運営をすることを通して、地域の良さや人とのつながりを感じ、自主性、行動力を身につけることができた。

地域での事業が継続していくよう、公民館担当者への意識付けや協力者と高校生、公民館をコーディネートしていく必要がある。

(4) 地域と学校の連携・協働へ向けた研修会－基礎・発展－



- 事業名 地域と学校の連携・協働へ向けた研修会
- 趣 旨 地域学校協働活動に関係する地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターまたは推進員として活躍が期待される方、市町村担当者などが地域学校協働活動の意義や地域学校協働活動推進員の役割を理解するとともに、「地域と学校の協働」についての理解を深め、地域の子どもを取り巻く課題を自分事にして考え、推進員としての活動のイメージを持ち、行動を起こすことができるようにする。
- 実施日 <第1回> 令和7年 6月 5日(木) 13:00～16:00
<第2回> 令和7年 11月 18日(火) 13:00～16:00
- 対 象 地域学校協働活動推進員・地域コーディネーターまたは推進員として活躍が期待される方
市町村教育委員会担当者・社会教育関係職員、県立学校・特別支援学校の推進員等
- 参加人数 <第1回> 59名(推進員等25名、市町村行政関係担当者12名、
県行政関係者11名、教職員8名、その他3名)
<第2回> 72名(推進員等34名、市町村行政関係担当者12名、
県行政関係者13名、教職員12名、その他1名)

■内 容

<第1回>

<p>【行政説明・講義】 「地域学校協働活動の意義、地域学校協働活動推進員の役割について」</p> <p>【演習】 「誰と何をやる？」</p>	<p>【行政説明・講義】 岡山県教育庁生涯学習課員</p> <p>【演習】 岡山県生涯学習センター 振興課員</p>
---	--

<第2回>

<p>【実践事例】 「地域が笑顔になる『地域学校協働活動』について」</p> <p>【グループワーク】</p> <p>【講義】 「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に向けて」</p>	<p>【実践事例】 福岡県福津市教育委員会 福津市津屋崎中学校区 統括地域コーディネーター 西田 明日香 氏</p>  <p>【グループワーク】 岡山県生涯学習センター 振興課員</p> <p>【講師】 文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏</p> 
--	--

参加者の声

- ・目的から思いまで共有することが大切だと分かった。そのためにも学校運営協議会と一体的に推進していきたい。また、現状を少し変えるだけで協働活動ができると分かった。
- ・コミュニティ・スクールに変わっていくことに不安があったが、現在の活動をもとに、前向きに活動できると感じた。
- ・大人がワクワクすることをしていかないと子どもたちはワクワクしない。そのために対話と熟議

を行い、ビジョンの共有をする必要があると分かった。

- ・たくさんのアイデア、ポイントを知ることができた。研修の内容、手段、進め方の全てが大変参考になったので、持ち帰って市内の推進員の研修会に活用したいと思った。

■成果と課題

研修会を通して、「目的やビジョンを共有することの必要性」「地域と学校の関係性づくりの要点」「教育的視点での変化を目的にした活動へ繋げていくための要点」について学んだ。アンケートでは「地域学校協働活動の意義と自身の役割について必要な知識を得ることができたか。」について、肯定的な回答をした参加者は100%であった。また、「地域と学校が信頼関係を強めていくためのポイントを知ることができたか。」「地域と学校が連携・協働することによるメリットを知ることができたか。」について、共に肯定的な回答した参加者は98.2%であった。これらのことから、参加者それぞれが自身の役割と活動の意義、そして活動のイメージをもつことができた。



(5) 就学前の非認知能力育成支援のための人材養成研修会

- 事業名 就学前の非認知能力育成支援のための人材養成研修会
- 趣 旨 非認知能力の育成に特に重要な時期とされる就学前の子どもたちへの関わり方を保護者等が学べるように「就学前の非認知能力育成プログラム」を家庭教育講座等で進行できるファシリテーターの養成を図る。
- 実施日 <第1回> 令和7年 7月 9日 (水) 10:00~16:00
<第2回> 令和7年 8月 28日 (木) 10:00~16:00
<第3回> 令和7年 11月 27日 (木) 13:00~16:00
- 対 象 家庭教育支援者(子育て関係NPOの職員、家庭教育支援チーム員、親プロファシリテーター、児童委員)、教職員等
- 参加人数 <第1回> 27名
<第2回> 25名
<第3回> 20名
- 内 容

回	内容	講師
1	【行政説明】・本事業について 【講 義】「非認知能力の伸ばし方」 【演 習】・保護者向け研修の体験	岡山県教育庁生涯学習課員 All HEROs 合同会社 代表 中山 芳一 氏 県生涯学習センター職員
2	【演習】 ・保護者向け研修の体験 ・プログラム実践	県生涯学習センター職員
3	○フォローアップ研修 【トークセッション】 ・「就学前の非認知能力育成プログラム」実践者の実践発表 【演習】 ・情報交換(実施に向けて)	NPO 法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事 赤迫 康代 氏 美作市家庭教育支援チーム チーム員 梅澤 とし子 氏 県生涯学習センター職員

参加者の声

- ・非認知能力を伸ばすには、子どもをよく見て、結果よりもその過程をほめることが大切ということが分かった。幼少期の声かけは大切にしたいと感じた。
- ・実際に活動された方のお話が聞けたのでとてもイメージが湧いた。準備が大切なこと、県や市町村の担当の方とのつながりも大事だと感じた。
- ・非認知能力を養うことは、子どもの健やかな成長だけでなく、親自身も子育てが楽しめると思う。私の子育ては終了したが、お手伝いできればと思う。

成果と課題

参加者の満足度は非常に高く、講義・演習を通して非認知能力について理解することができ、演習を実施する際のイメージをもつことができていた。また、グループワークの時間を確保したり、グループ編成を工夫したりしたことで、参加者同士のつながりもつくることができた。就学前に非認知能力を育成することは大切なことであるとの視点を参加者がもち、実際の場面を想定しプログラムを試行することができた。今後は、参加者がファシリテーターとして活動できる場をより多くの地域で設けることができるように内容を考えていく必要がある。



(6) 家庭教育支援者スキルアップ講座～すこやか家庭教育相談員養成講座～

- 事業名 家庭教育支援者スキルアップ講座～すこやか家庭教育相談員養成講座～
- 趣 旨 家庭教育支援団体や家庭教育支援チーム員、ファシリテーター等の家庭教育支援に携わる方々のスキルアップを図るため、乳幼児期から少年期の家庭教育に関する専門的知識の習得を目指し、本講座を実施する。
- 実施日 <第1回> 令和7年10月8日(水) 10:30～16:15
<第2回> 令和7年10月30日(木) 10:30～16:15
- 対 象 家庭教育相談員、市町村関係職員、家庭教育支援チーム員、社会教育・学校教育関係職員等の家庭教育支援関係者、子育てサポーター・子育て支援団体等
※原則として、5講座以上受講できることを条件とする。
- 参加人数 <第1回> 104名
<第2回> 93名

■内 容

<第1回>

講義内容	講 師
『発達障害』ってなんだろう？ ～障害は、その子の全てではなく、1つの要素～	発達障害の子供を持つママのサポーターぴい♥さぼ 古山 真紀子 氏
不登校傾向の子どもをもつ保護者への支援	県教育庁人権教育・生徒指導課 スクールソーシャルワーカー 中田 雅章 氏
デジタル時代の子育てを考えよう ～ネット・スマホとの付き合い方～	株式会社コムパレット 代表取締役 桐野 志摩美 氏

<第2回>

傾聴スキルを支援に生かす	岡山大学学術研究院社会文化科学学域 教授 東條 光彦 氏
経済的困難さを抱えた家庭へのアプローチ ～実体験をふまえて～	県教育庁人権教育・生徒指導課 スクールソーシャルワーカー 浅尾 真由美 氏
子どものココロとカラダ ～イマドキの性教育～	だいじょうぶらぼ 為清 淑子 氏

参加者の声

< 1回目 >

- ・話の内容も具体的なものが多く、今まで聞いたことのある発達障害の話とは違って新鮮だった。ADHD体感ワークはよくわかる体験でよかった。同じ職場の方々とまた聞かせていただきたい。
- ・言語だけでなく非言語で発せられるメッセージもしっかりと把握し、支援をしていきたい。
- ・考える力を育てる「5か条」を習慣化できるように毎日の生活の中で意識したい。子どもと対話するためには、大人が余裕を持つことが大切だと学んだ。



< 2回目 >

- ・自己実現と自己成長力についても理論的に具体的に学べたので、子どもたちの自己成長力を信じて、家庭や学校でも自己表現する場、自己表現ができる場を広げていきたい。
- ・私自身も地域資源を知り、地域人材と繋がったうえ、チームで子どもや家庭を支えていけたらと思う。
- ・今と昔では性教育も変わってきているのだなと思った。ストレートな説明でとてもわかりやすかった。自分の体を大切にすること、イヤなことをされたらハッキリ嫌だと伝えることが大事だと伝えていきたい。



■成果と課題

子育てに関わる現代的な課題を中心に6つの分野の専門家を講師に招き、スキルアップを図った。参加者からは、講師の話聞いて今後の活動に活かしていこうとする前向きな声が聞かれた。今後も様々な現代的課題における講義により、スキルアップを図っていきたい。

3 社会教育主事講習〔B〕

■事業名 社会教育主事講習〔B〕

■趣 旨 これからのひとつづくりやつながりづくり、地域づくりの中心となることが期待されている社会教育主事育成のための講座を毎年開催し、県内の社会教育事業を進めていく人材を育成する。

■対 象 社会教育主事講習規定（昭和26年文部省令第12号第2条の各号に該当する者）
・大学・短大等を卒業 ・教員免許を所有
・社会教育関係の職に2年以上従事 ・学校に4年以上勤務 等

■実施形態 国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが実施する社会教育主事講習の集合形式で実施する際の地方会場として開催。集合形式での講義・演習（生涯学習支援論、社会教育演習）の実施。

■科目・日程

受講科目	実施方法	期間
生涯学習概論	eラーニング、ライブ配信	1月16日(金)～1月26日(月)
社会教育経営論	eラーニング、ライブ配信	1月27日(火)～2月5日(木)
生涯学習支援論	ライブ配信 集合形式	2月6日(金)～2月10日(火) 2月12日(木)～2月13日(金)
社会教育演習	集合形式	2月16日(月)～2月20日(金)

※ 岡山県生涯学習センターでは、集合形式での講義・演習を実施

■参加人数 <生涯学習支援論> 12名
<社会教育演習> 11名

■内 容 <生涯学習支援論> 「参加型学習の実際とファシリテーション」
<社会教育演習> 「事業計画立案の実際」

参加者の声

- ・社会教育主事講習で学んだ「主体的な学び」、「学びの場づくり」を日々の業務に生かしたい。
- ・一方的に提供するのではなく、住民の方とともに学び合い、つくり上げる事業運営を心がけたい。
- ・行政と民間の共通理解を形成し、対話・合意形成・人材育成が循環するような仕組みをつくりたい。

■成果と課題

生涯学習概論、生涯学習経営論、生涯学習支援論、社会教育演習を修了した県内社会教育に携わる受講者全員を社会教育主事有資格者として養成した。また、受講後のアンケートによると、受講者全員が、今後は社会教育の視点を持ち、業務にあたりたいと回答した。

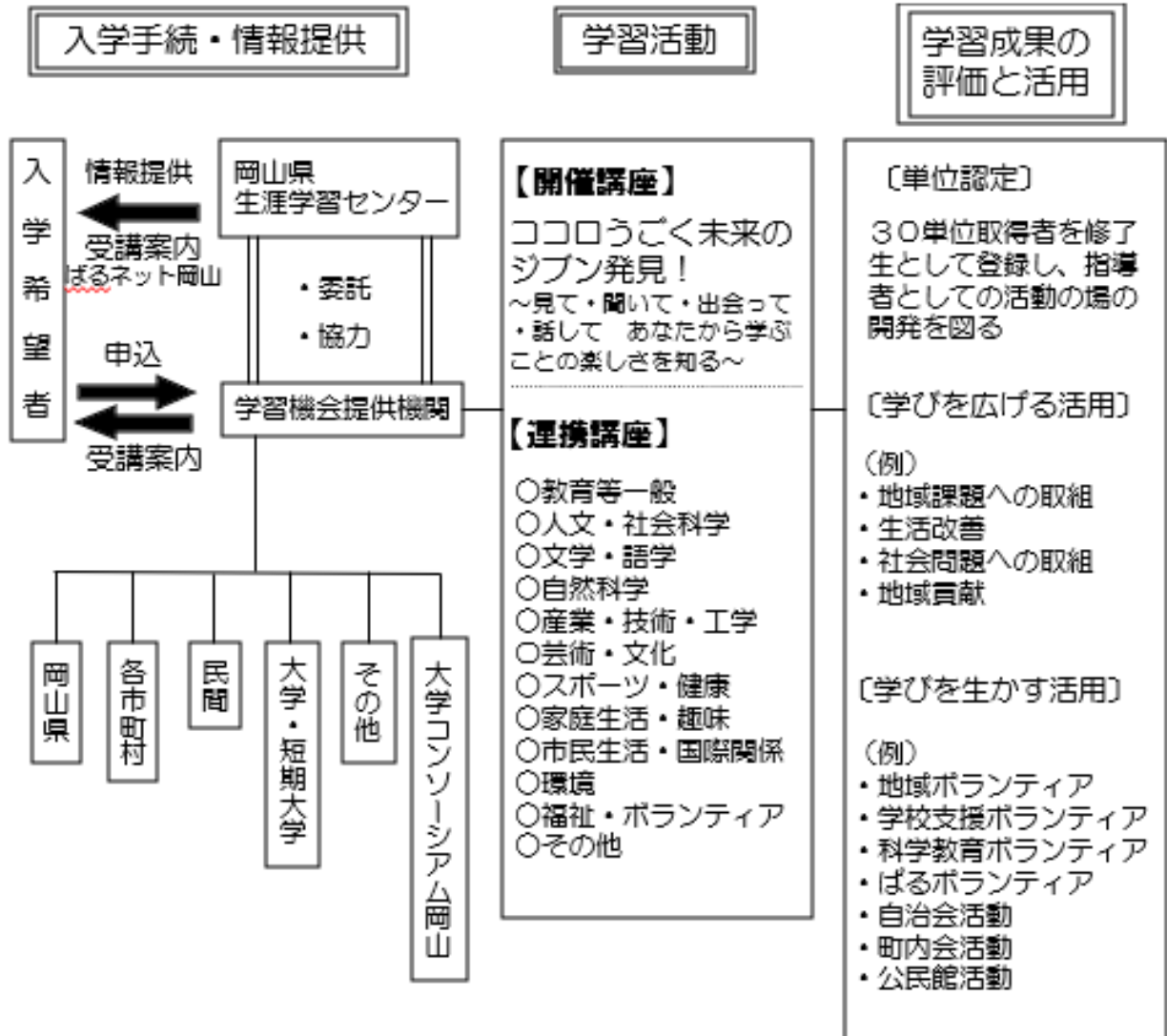
今後は、人材を養成するだけでなく、社会教育士・社会教育主事としての資質向上を図るため、「コーディネート能力」「ファシリテート能力」「プレゼンテーション能力」を伸ばすといったセンター主催講座を案内し、継続的なフォローアップ体制の構築を図っていく。



II 生涯学習環境の充実

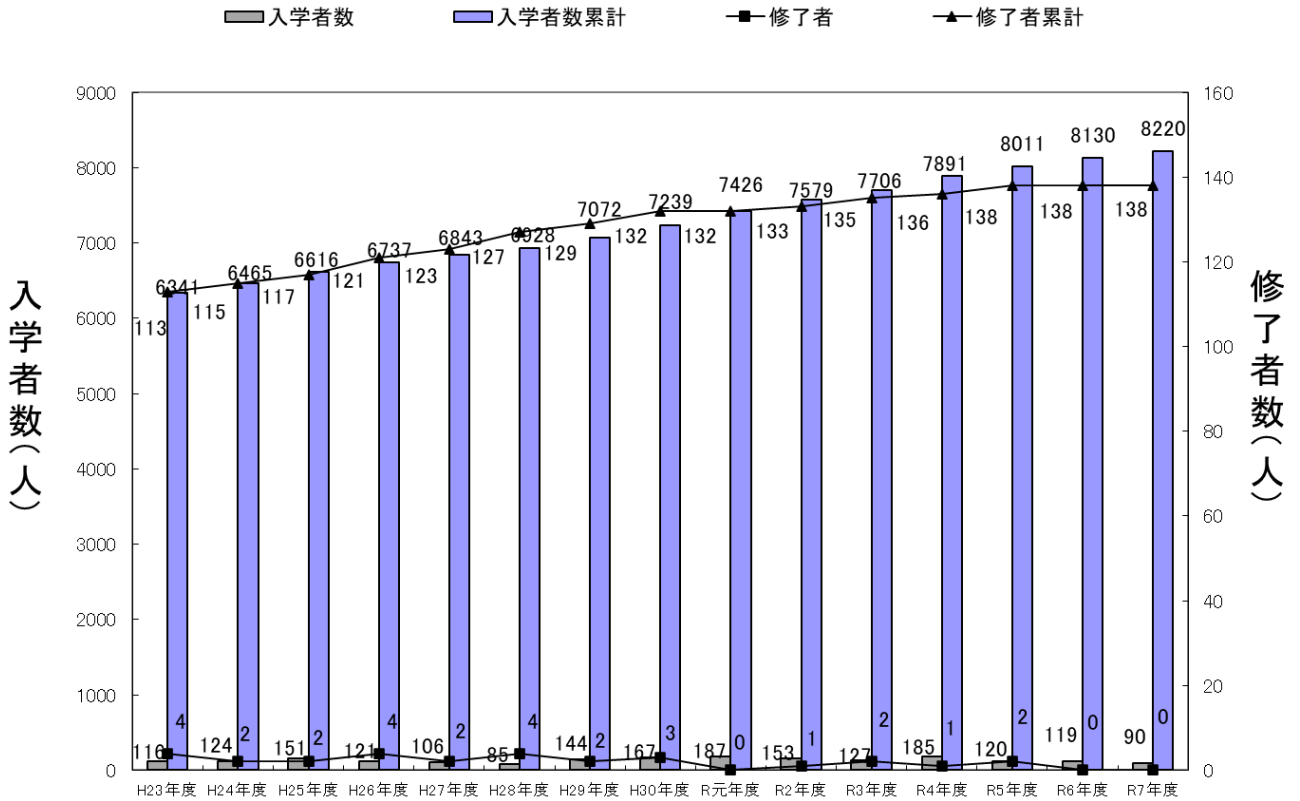
1 岡山県生涯学習大学・学習情報の提供等

(1) 岡山県生涯学習大学の仕組み

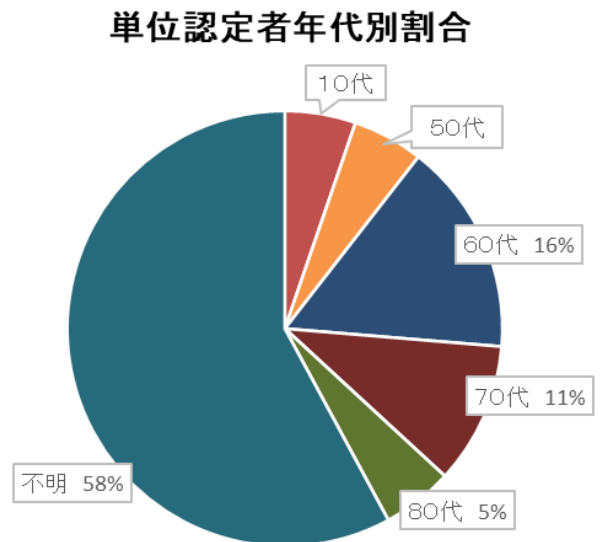
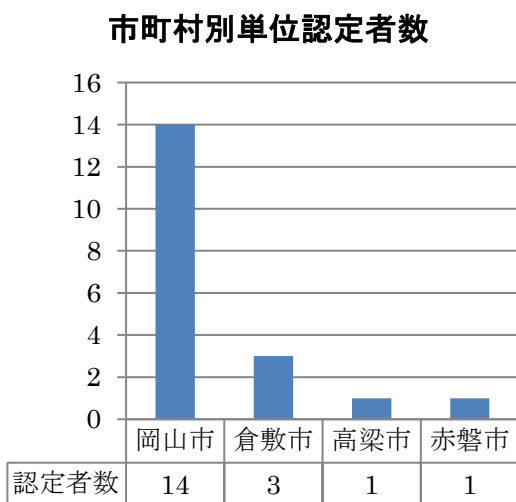


(2) 受講者の状況

(ア) 年度別入学者数と修了者数



(イ) 令和7年度単位認定者数 (認定者数合計19名)



(3) 開催講座の概要

■事業名 ココロうごく未来のジブン発見！
～見て・聞いて・出会って・話して あなたから学ぶことの楽しさを知る～

■趣 旨 岡山県内の社会教育施設や企業等と協働して、人づくりの視点に立った学びの場で、子どもたちが、見て、聞いて、体験して、出会った人々と話すことをとおして、自らの学びと視野を広げ、幅広い分野に興味・関心を持ち、学びを得ることの楽しさを実感する。さらに、社会で活躍する大人の姿を間近で見て、対話をするすることで、これからの自分について考えたり、主体的に学びを広げていこうとする思いをもったりすることができる。また、関係施設、企業の存在や業務内容についての認知度が高まり、社会全体で子育てを応援する機運の醸成を図る。

■内 容

【平林金属株式会社編】

日 時 : 令和7年9月27日(土) 10:00~12:00
場 所 : 平林金属株式会社 リサイクルファーム御津(工場・研修室)
対 象 : 小学3年生~小学6年生
参加人数 : 6名
内 容 : 自己紹介、アイスブレイク、工場見学、
体験活動(PC分解、段ボール財布づくり、携帯電話模型を用いた資源リサイクルの解説)、
対話(「大人の夢を知る時間」「自分の夢を考え発信する時間」)、振り返り



【閑谷学校編】

日 時 : 令和7年12月21日(日) 10:00~11:30
場 所 : 特別史跡 旧閑谷学校(習芸齋・講堂)
対 象 : 小学5年生~中学生
参加人数 : 5名
内 容 : 旧閑谷学校の見学、論語についての説明、自己紹介、職員への質問タイム、
論語の素読・講釈、論語の会読(「気に入った論語とその理由」)、振り返り



【岡山地方裁判所編】

日 時 : 令和7年12月26日(金) 10:00~12:00
場 所 : 岡山地方裁判所(法廷・大会議室)
対 象 : 小学5年生~中学生
参加人数 : 15名
内 容 : 自己紹介、アイスブレイク、裁判所の役割についての説明、法廷見学、
対話(「見学で印象に残ったこと」「なんのために働くの?」「どんな大人になりたい?」)
振り返り



参加者の声

<小中学生>

- ・普段は話すことが出来ない方々と話ができ、色々な体験ができ、将来への参考になった。これからも自分の生き方についてたくさん考えていきたい。
- ・学校で習ったこと以外にも働いている人の思いや、いろいろな人と話す楽しさ、新しい価値観などを知ることができた。

<保護者>

- ・普段立ち入ることができない場所で、関わることのない職員の方の経験談も聞くことができたので、本人の職業を考えていく上で、とても参考になったと思う。
- ・今回のような対話の機会はなかなか無い上、子どもたちも楽しんでいる様子が見えてうれしかった。未来の自分を発見する糸口がたくさんありそうだと感じた。
- ・職員の方も、休みの日は趣味でストレスを発散したり、悩みを周りと分かち合ったり、子どもたちにとって自分たちの延長線上にいる大人なのだと思近にも感じられたと思う。

<連携先>

- ・改めて自分の仕事や、今後自分がどう生きていきたいのか考えられる貴重な時間にもなった。子どもたちと関わることで、まだまだ私たちも夢を追いかけたいとエネルギーをもらい、気持ちが明るくポジティブになれた。今後、我々の仕事の魅力も伝えていけるようにしていきたいと思う。
- ・最初は、不安ばかりでしたが、すごく楽しい時間になった。自分自身を見つめ直す時間にもなり、すごく良い経験ができた。

■成果と課題

子どもたちは、連携先での見学・体験や対話を通じて、職業理解を深め、多様な生き方に気づくことができた。事後アンケートでは、全員の子どもが「職業や自身の生き方・在り方を考えるきっかけになった」と回答しており、将来への前向きな意識の醸成につなげることができた。

連携先への事後アンケートでは、全ての職員が「自己の生き方を振り返る機会になった」と回答し、さらに94%の職員が「来年度以降の子どもを対象にした事業発案のきっかけになった」と回答しており、自己を見つめ直すとともに、所属の持つ強みや特徴を生かし、これまでになかった子どもを対象とした事業づくりのきっかけとすることができた。

より多くの対象者に情報を届け、参加を促すための効果的な周知方法の検討や、ゆとりを持って各プログラムを実施するために、プログラム内の時間配分の工夫や、準備の時間を確保することが必要である。

(4) 連携講座の概要

(ア) 講座数

分野 実施機関	教育等 一般	人文・ 社会科学	文学・語学	自然科学	産業・技術 ・工学	芸術・文化	スポーツ ・健康	家庭生活 ・趣味	市民生活・ 国際関係	環境	福祉・ ボランティア	その他	計
国の機関							1	1	1				3
県庁各課									2	1		2	5
県立機関	13	11		13		9		1	2				49
市町村	8	39	5	25	1	6	6	2	6	1	1		100
大学・短大等	12	27	10	32	9	10	23	7	5		5		140
専修学校													
各種団体等	16	29	22	4	5	10	56	17	11	4	8	138	320
合計	49	106	37	74	15	35	86	28	27	6	14	140	617

(イ) 連携機関一覧

国の機関 (2)	農林水産省 中国四国農政局	大学・短大等 (27)	岡山大学学務部学務企画課 総務・企画グループ
	国立吉備青少年自然の家		岡山大学社会文化科学研究科等事務部庶務グループ
県立機関 (11)	危機管理課		岡山大学スポーツ支援室
	県民生活部くらし安全安心課		岡山大学教育学系事務部
	循環型社会推進課		岡山大学自然系研究科等総務課総務グループ
	子ども未来課		岡山大学大学院保健学研究科
	記録資料館		岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター
	県立美術館		岡山大学薬学部庶務
	岡山県消費生活センター		岡山大学大学院歯薬学総合研究科等総務課
	岡山県立図書館		岡山大学情報統括センター総務・広報グループ
	岡山県立博物館		岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科
	岡山県古代吉備文化財センター		岡山大学文明動態学研究
	岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイビア		岡山大学図書館・公共知創管理統括部公共知創課アカデミックサポートグループ
市町村 (17)	岡山市埋蔵文化財センター		岡山大学病院 新医療研究開発センター
	岡山市立犬島自然の家		岡山県立大学
	岡山市環境学習センター「めだかの学校」		岡山理科大学
	岡山シティミュージアム		川崎医療短期大学
	倉敷市男女共同参画推進センター		川崎医療福祉大学
	津山市地域振興部生涯学習課		吉備国際大学
	津山市医療保険課		倉敷市立短期大学
	津山市健康増進課	山陽学園大学・山陽学園短期大学	
	津山市立図書館	就実大学	
	津山市中央公民館	中国学園図書館	
	井原市井原図書館	新見公立大学	
	高梁市歴史美術館	ノートルダム清心女子大学	
	高梁市成羽美術館	中国短期大学	
	新見市立中央図書館	放送大学岡山学習センター	
	赤磐市教育委員会		
	美作市教育委員会社会教育課		
	浅口市教育委員会		

各種団体等 (40)	公益社団法人岡山県看護協会	各種団体等	中国電力株式会社水島発電所
	公益財団法人岡山市公園協会		旭川荘療育アカデミー
	公益財団法人吉備路文学館		美術モデルPeach
	公益財団法人岡山県郷土文化財団		大学コンソーシアム岡山
	公益財団法人瀬戸内市歴史まちづくり財団		特別史跡旧開谷学校顕彰保存会
	公益財団法人岡山県老人クラブ連合会		久米南もったいないLink
	一般財団法人健康生きがいづくりおかやま		華鶴大塚美術館
	一般財団法人岡山県国際交流協会		ふれあいネットはやしま
	一般財団法人玉野産業振興公社		ヘルシーランニング
	一般社団法人笑いヨガ協会		龍泉寺の自然を守る会
	NPO法人岡山きのこ・あったか会		岡山県生涯学習の会
	旭川かいほり調査実行委員会		
	犬養木堂記念館		
	表町商店街連盟		
	岡山北商工会		
	岡山県金融広報委員会		
	岡山県ボランティア・NPO活動支援センター		
	岡山県南部健康づくりセンター		
	岡山市民文化大学		
	学舎まび		
	川崎医科大学総合医療センター		
	川崎医科大学附属病院		
	吉備国の語り部の会		
	株式会社くまベジ		
	郷土の歴史・経済・文化研究会		
	キリンビール株式会社岡山工場		
	重井医学研究所附属病院		
	慈佳病院		
	シニア世代のサバイバル男料理の会		

計 97 機関

(5) 生涯学習・社会教育よろず相談事業（市町村コンサルティング）

- 事業名 生涯学習・社会教育よろず相談
- 趣 旨 市町村の生涯学習・社会教育計画、各地域に応じた課題、諸事業などについて、大学関係者、県生涯学習センター社会教育主事等が、市町村教育委員会、公民館等に対するコンサルティングを行うことにより、より有効な生涯学習・社会教育推進体制の整備を図る。
- 対 象 市町村
- 実施日 令和7年6月24日(火)
- 実施方法 Web会議システムアプリケーション「Zoom」を使用したオンラインによる開催
- 団 体 津山市地域振興部 生涯学習課
内 容 「第5次津山市生涯学習推進計画について」
- コンサルタント 岡山大学学術研究院教育学域副研究科長・副学部長 教授 熊谷 慎之輔 氏

■成果と課題

津山市の第5次津山市生涯学習推進計画の策定において、「学び直し（リスキリング）」および「リカレント教育」の位置付けや、計画にこれらの要素を盛り込む際の記述方法などについて相談をした。

コンサルタントからは、リスキリングやリカレント教育の意義や捉え方、生涯学習推進計画の中にこれらの視点や方向性を反映させることの重要性などについて助言を行った。

津山市が策定した第5次津山市生涯学習推進計画には、基本目標1「学ぶ」の施策の方向性の1つとして、「社会人の学び直し（リカレント教育）」が位置付けられている。

市町村が抱えている課題は多岐にわたるが、単に「悩みはありませんか？」と尋ねるだけでなく、対話を通じて本質的な課題や潜在的な問題点を引き出すことが重要であるため、岡山、津山両教育事務所の力添えを得ながら複数件実施していきたい。



(6) 「ばるネット岡山」の管理と運営

- 事業名 岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」
- 趣 旨 「ばるネット岡山」は、広く県民の生涯学習の一助となるように県民の様々な生涯学習情報をウェブ公開している情報提供システムである。
- 内 容 「ばるネット岡山」は、「きっと見つかるあなたのための生涯学習情報」をキャッチフレーズとして、平成9年から管理運用されてきた。現行は平成30年2月に更新し、第8期目である。CMSでホームページを作成できるようになったので、それぞれの担当者が、自らの思いを込めてページを作成でき、県民へのサービス提供がより迅速かつスムーズになった。

■成果と課題

本年度、2つのシステムを導入した。1つ目は、様々な事業の申込みや登録情報の更新手続き等をフォームで行うことにした。電話やメール、郵送でやりとりしていたものを、インターネット上で必要事項を入力して申請するシステムである。一度利用すれば、その快適さを実感してもらえる。2つ目は、駐車場情報である。月間予定表に混雑が予想される日を表記したり、当日の駐車場情報を適宜更新したりするシステムである。今後もインターネットの利便さを活かして、県民へのサービス向上を図っていききたい。

また、令和6年1月、情報・創作棟での無線LANによるインターネット接続サービスを開始した。利用申請は、県生涯学習センターホームページの申請フォームから行い、MACアドレス識別により接続を限定している。本年度は、560件の申し込みがあり、多くの方にその有用性を実感してもらった。一方で、接続不具合が発生するケースも数件確認されており、その改善が今後の課題である。

文字サイズ 大きく 標準 背景色 黒 青 標準 検索 サイト内検索 印刷

岡山県生涯学習センター

ホーム お知らせ 施設利用案内 アクセス 駐車場情報 学習相談 センターについて

岡山県生涯学習大学

のびのびキャンパスあかやま

講座案内<後期版>

2025年10月～2026年3月開催分

岡山県生涯学習ポータルサイト
ばるネット岡山
ここから学習情報の検索ができます

検索

岡山県生涯学習大学について

岡山県生涯学習センターの事業・研修会について

視聴覚ライブラリー
教材貸出利用方法について

インターネット予約
利用者の方へ 初めの方へ

お知らせ

ばるネット
新着学習情報

視聴覚ライブラリー
からのお知らせ

トピックス

現在、トピックスはありません

- ▶ 開所時間変更(令和8年3月31日、4月1日)について
- ▶ 高校生・大学生発!企画Lab

(7) 夢育パートナーズ

■事業名 夢育パートナーズ

■内容 岡山県教育委員会では、企業やNPO等がもつ専門的な知識、ノウハウ等を学校の教育活動や休日、放課後等の地域での活動に取り入れることにより、子どもたちに豊かな体験活動を提供している。子どもたちの学びや成長につなげるために「夢育パートナーズ」を設け、様々なニーズに応じた登録情報を紹介している。

■多様な外部人材を活用する意義

令和2年度から全面実施の学習指導要領においては、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとしており、実社会での経験や専門知識を生かした教育活動は、大変有効である。地域、社会や世界の変化に対応し、必要な情報を活用して新たな価値を創造していくためには、企業・団体・大学等の多様な外部人材を活用して、子どもたちの学びを充実していくことが重要である。

■登録団体 128 団体

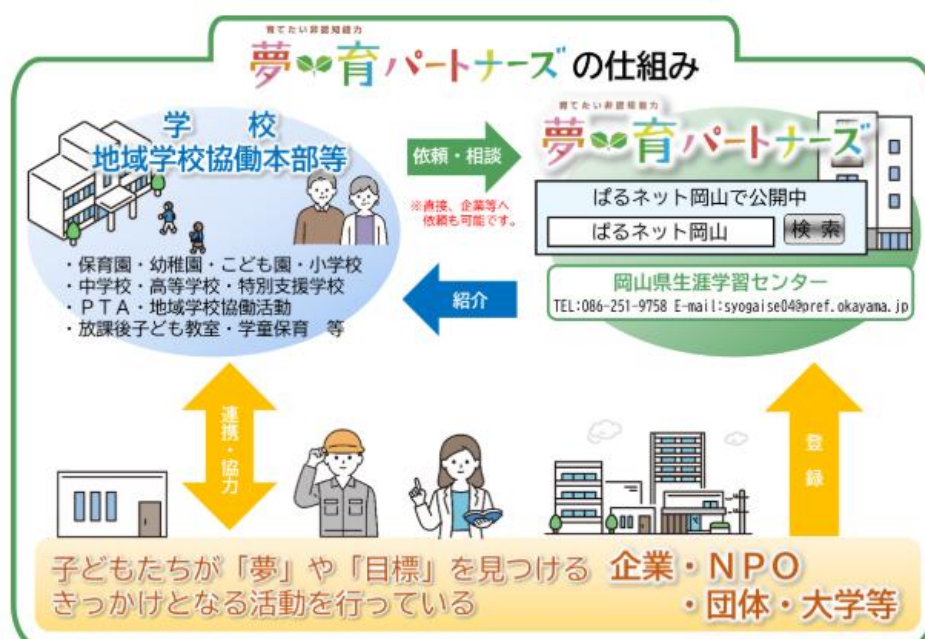
■実績等 908 件

■成果と課題

この事業は、令和6年2月より「おかやま子ども応援人材バンク」から「夢育パートナーズ」としてリニューアルした。

「おかやま子ども応援人材バンク」は平成30年度、岡山県生涯学習課から岡山県生涯学習センターに移管された。移管される前に、岡山県生涯学習課が県内の学校にパンフレットを配布して広報活動を行った。岡山県生涯学習センターのホームページでも、活動の様子を取材し、まとめたものを掲載するなどして、情報を発信した。

現在は、岡山県生涯学習センターを問合せ窓口としてマッチング業務を行っている。学校と企業等のマッチングは、学習相談員が行うことで効率的な運用ができています。問合せに対しては、丁寧に要望を聞き取り、ニーズに合わせたマッチングができています。一度マッチングに成功した多くの学校は、その後も企業や団体と直接やりとりをすることができ、継続した活動も多く見られる。一方で、新規の問い合わせ件数については、本年度15件で、より一層の広報活動が必要である。



(8) 学習相談

■事業名 学習相談

■趣 旨 広く県民の生涯学習に関する相談を受け、生涯学習の一助とする。

■内 容 学習相談員が対面、電話、電子メール等で生涯学習に関すること（人権学習等の視聴覚教材、講師紹介、講座紹介等）に個別に応じる。

■成果と課題

本年度の相談件数は1,106件（「夢育パートナーズ」15件を含む）であった。あらかじめ「ばるネット岡山」等で検索し、依頼したい講師や団体を選定して、相談してこられる方も増えている。引き続き、依頼者の要望に沿うよう、一つ一つの相談に、迅速かつ丁寧な対応に努めたい。

学習相談コーナーや学習ゾーン・交流ゾーンがある交流棟2階では、県民の生涯学習の場として、多様なニーズに沿う環境整備を行った。利用者数は約80,000人となっている。学習ゾーンでは、本年度から「学習席利用カード」を導入し、利用者の意識向上を図ると共に、集中して学習のできる環境づくりに努めた。交流ゾーンではよりゆったりと絵本や児童書を楽しめるようじゅうたんスペースを広げると共に、「今月の本棚」を新設し、季節や行事などを鑑みながら子どもたちに読んで欲しい本を選書し、ポスターと共に展示している。また、本年度から幼児を対象に読み聞かせ・お話・ものづくりを行う、「楽しいお話時間『みんなであそぼっ!』」を月1回開催している。

来年度も利用者が安全・安心して利用できる環境を整備するとともに、相談者のニーズに沿った細やかな対応ができるよう努めていきたい。

(9) ボランティアの活動支援 ぱるボランティア

■活動名 ものづくり教室

■趣 旨 センター交流棟などを、生涯学習活動の成果を発表する場として提供し、ぱるボランティアの自発的、自主的な活動を促すとともに、交流棟の活性化を図る。

■対 象 県民一般

■実施日・内容・参加人数

実施日	活動内容	参加人数	ボランティア 参加人数
7月21日(月) 14:00~16:00	ストロートンボ	62名	7名
3月15日(日) 13:30~15:30	ペットボトルけん玉作り	50名	4名

延べ参加人数 123名

■成果と課題

本年度は、ぱるボランティアの「ものづくり教室」を2回実施した。身近にあるものを材料として使い、自宅でも簡単に作ることでできる題材であったため、参加者にはとても好評であった。

できあがったものを、ぱるボランティアと参加者が一緒にその場で飛ばしたり回したりして遊ぶ姿が見られ、ぱるボランティアとしてもやりがいを感じる事ができたようだ。「家でも作って遊びたい」と言う参加者もあり、ものづくりに対する興味や関心を高めることができた。

また、ぱるボランティアとして、意欲的に参加する学生もあり、世代を超えた交流も生まれている。

来所者へ参加を呼びかけたことから、多くの方に参加してもらうことができた。来年度は「ものづくり教室」の実施回数を増やし、引き続きボランティアの募集を積極的に行い、ぱるボランティアの活動を活性化していきたい。



(10) 企画L a b. の運営

■事業名 企画L a b.

■趣旨 交流棟2階において、企画L a b. のボランティア（ばるボランティアの一部）が、企画・運営を行い、出会い・交流の場を提供する。

■対象 県民一般

■企画運営ボランティアチーム・実施日・内容・参加人数

【集まれ！ゲームの森】（企画運営：高校生・大学生ボランティア）

実施日	活動内容	参加人数	ボランティア参加人数
4月29日 (火・祝日)	・新聞紙じゃんけん ・ペットボトルボーリング 等	10名	6名
12月8日(日)	・科学キッズフェスティバル in 京山祭ブース出展 「コロコロスライダー」	268名	3名

【いち・にの・さんでわらべうた！】（企画運営：高校生・大学生ボランティア）

実施日	活動内容	参加人数	ボランティア参加人数
5月18日(日)	・わらべうた ・制作「紙皿のモビール作り」	6家族 (16名)	5名
10月11日(土)	・わらべうた ・制作「みの虫作り」	5家族 (11名)	3名
3月15日(日)	・わらべうた ・制作「あおむし作り」	4家族 (11名)	3名

【ボド☆カフェ】（企画運営：高校生ボランティア）

実施日	活動内容	参加人数	ボランティア参加人数
11月2日(土)	・UNO ・トランプゲーム 等	13名	7名
3月8日(日)	・UNO ・トランプゲーム 等	11名	5名

【いろえんぴつ】（企画運営：大学生ボランティア）

実施日	活動内容	参加人数	ボランティア参加人数
12月6日(土)	・オセロく（オセロとすごろくを合わせたチーム考案のオリジナルゲーム）	15名	3名

合計	355名	35名
----	------	-----

■成果と課題

「学校や家庭ではできない体験・異年齢の関わり（ナナメの関係づくり）」ができるように仕掛けていき、初めて会った参加者同士も関わりを楽しむことができた。ボランティアと参加者との間により関係ができ、リピーターが生まれている。また、高校生と大学生、違う学校の学生同士のつながりなどボランティア間でもよい関係ができている。

今年度も科学キッズフェスティバル in 京山祭のブース出展を行い、大学生ボランティアが当日も力を合わせてブースを運営した。

「企画会議→準備→実施→振り返り」の運営サイクルを支援していくことで、ボランティアが主体的に取り組み、安心して企画・運営に臨めるようにしている。

■活動の様子

集まれ！ゲームの森



いち・にの・さんでわらべうた！



ポド☆カフェ



いろえんぴつ



(11) 科学キッズフェスティバル in 京山祭

■事業名 科学キッズフェスティバル in 京山祭

■趣 旨 県下の科学教育に関わる機関や団体、大学と連携し、子どもから大人まで幅広い世代が楽しく体験しながら科学を学べるイベントを開催することにより、科学教育普及の推進に資する。

また、ボランティアの方々や、地域の方がイベントに参加することにより、子どもたちが様々な世代の人と触れ合い、ともに学び体験することによって、世代を超えた学び・交流がさらに広がることを目指すものである。

■実施日 令和7年12月14日(日)

■対 象 県民一般

■出展団体・内容・参加人数

出展団体 (29 団体)	内 容
株式会社池田動物園 NPO法人岡山口ロボット技術子供育成協会 国立吉備青少年自然の家 岡山県立水島工業高等学校 情報技術科 岡山県立高梁城南高等学校 電気科 岡山県レクリエーション協会 瀬戸レクリエーションクラブ 北房レクリエーションクラブ 岡山理科大学科学ボランティアセンター学生スタッフ会 就実大学 一般社団法人岡山市歯科医師会立岡山歯科技工専門学校 NPO法人科学わくわくクラブ 平林金属株式会社 岡山科学技術専門学校 食品健康科学科 DX学科 二級自動車工学科	骨の動物探偵団！ サッカーロボットのプログラム体験会 クラフト～木のキーホルダーづくり～ 人協働ロボット「COBOTTA」に触れてみよう！ 光る剣をつくってみよう！ 作って遊ぼう！ チャレンジ・ザ・ゲームを体験しよう！ ブラックウォール 身近なもので電池を作ってみよう！ 「自分のゆび型」をつくろう！歯科用レジンをつかってみよう！ 顕微鏡で観察してみよう！ ノートパソコンとダンボールを使ってリサイクルとアップサイクルを体験しよう！ クリスマスリースをつくろう！ オリジナルコースターをつくろう！ ライントレースカーの走行体験 天然素材「コルク」を学ぼう！ 日本ミツバチ巣箱づくり体験 コケをアップで見よう！ メタバース（ロブロックス）で地球温暖化を学ぼう！ ポップコーンの科学実験 わたがしづくり体験 三菱自動車の電動車両で楽しい給電ライフ体験！ 世界に1台！オリジナルの「牛乳パックカー」を作ってコースを走らせよう！ 万成絵の具～地球からの贈り物～ 科学ショー「真空実験 しゅぽ↑しゅぽ↓」 プラネタリウム「クリスマスのおほしさま」 世界に一つ、あなただけの「まゆ玉ペット」を誕生させよう！ 鳥城高校のわくわく広場 わくわく×ドキドキ ゲームの森
内山工業株式会社 備前西日本ミツバチ研究会 岡山コケの会 NPO法人 co2 sos 岡山市青年協議会 岡山県青年団協議会 西日本三菱自動車販売株式会社中四国特販部 牛乳パックカー製作委員会 株式会社フジタ地質 人と科学の未来館サイピア ばるボランティア 岡山県立鳥城高等学校ボランティア 企画L a b. ※学生ボランティアも運営補助 (岡山大学・明誠学院高等学校)	

参加人数 1,260人

■成果と課題

どのブースでも身近に存在するモノや事象に興味を持つことのできる体験ができた。

来場者からも「日頃触れることのできないものに触れることができて楽しかった。」「毎年参加している。子どもが少しずつ大きくなり、参加できるブースも増え楽しむことができた。スタッフの皆さんの対応も丁寧で感謝している。」などの感想をいただき、家族で楽しめるイベントとなった。

本年度は、体育館を使用しなかったことで混雑が懸念されたが、問題なく開催できた。一方で、昼時に混雑したり、待ち時間が長くなったりしたブースがあった。また、整理券が早い時間帯に無くなり、午後から来場した参加者が体験できないブースもあった。

来年度は、より多くの参加者が体験できるように出展内容や整理券の配布についても考えていきたい。

■活動の様子



サッカーロボットのプログラム体験会



ブラックウォール



万成絵の具～地球からの贈り物～



実験わたがしづくり体験



世界に一つ、あなただけの
「まゆ玉ペット」を誕生させよう！



ノートパソコンとダンボールを使って
リサイクルとアップサイクルを体験しよう！

(12) ホームページ、SNSによる発信

■内 容 県生涯学習センターのホームページを使って、講座・講演、講師等に関する情報やイベントのお知らせ、生涯学習・社会教育に関する情報などの情報発信を行うとともに、SNSを活用し、交流棟の展示スペースの紹介や研修会・講座、イベント情報などを発信した。

・ SNS (Facebook、Instagram、X) 発信実績：101回

■成果と課題

一般の県民を対象とした事業について、申込みを県生涯学習センターホームページのアンケートフォームによる方法で行うことで、参加者のとりまとめや名簿の作成が、正確に素早くできるメリットがある。また、申込者にとっても、二次元コードで簡単に申込みができるとともに、必要な情報が確実に入力されるようになり、利便性が向上している。今後も、アンケートフォームによる申込みを進めていく。

SNSは、多くの県民等への即時的な情報伝達と広範囲への情報拡散を可能にする手段として有効な広報媒体であることから、令和7年度から Instagram およびX公式アカウントを取得し、情報発信を行っている。複数のSNSメディアを利用することで、幅広い年齢層の県民に閲覧してもらい、センターの事業に興味を持ってもらいたい。

素早い情報発信、効果的な写真の活用、記事の更新時間、# (ハッシュタグ)などを工夫し、“見てもらえるSNS”となるように努める。また、研修会・講座・イベント情報に限らず、センターの日常の様子なども紹介し、センターに親しみを感じてもらえるようにもしていく。



Facebook



Instagram



X

(13) 視聴覚教材の活用と機材の提供

■視聴覚教材、機材利用状況

平成30年（平成29年度）2月から、ぱるネットに新システムが導入され、視聴覚教材・機材をインターネットにより予約できるようになった。

■予約件数の内訳 ※予約は、インターネットによる方法と電話による方法の2通り

	視聴覚教材				機材			
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
インターネット 予約件数	36	45	45	32	10	16	14	24
インターネット 予約割合	14.1%	16.5%	17.2%	32.3%	9.4%	7.8%	6.4%	10.3%

■視聴覚教材貸出本数

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
16ミリフィルム	2	0	2	0
DVD	239	261	256	146
VHS	13	12	10	4

■機材貸出台数

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
16ミリ映写機	1	4	1	0
液晶プロジェクター	67	159	181	228
ビデオデッキ	2	1	0	0
スクリーン	27	27	28	23
スライド映写機	0	0	0	0
OHP	3	2	1	2
教材提示装置（OHC）	0	1	2	2
DVD・BDプレーヤー	4	9	6	8
スピーカー	2	3	1	3

視聴覚機材の予約件数は、前年度に比べてプロジェクターの貸出台数が大きく伸びている。一方で、視聴覚教材の貸出台数は前年度の実績の半分程度となっている。視聴覚教材の貸出件数の減少は、高頻度にDVDの貸出を行っていた複数の団体（学校）が、令和7年度からの利用が少なくなったことが主な要因である。

インターネット予約については、視聴覚教材・機材の予約件数ともに増加傾向にあり、インターネット予約を繰り返し利用している団体が増えてきていると考えられるが、依然としてインターネットによる予約の割合は少ないことから、インターネットで予約するメリットを県生涯学習センターのSNSやホームページ等で紹介するなどして、県の視聴覚ライブラリーで所蔵する視聴覚教材や機材をより多くの方々に利用してもらい、貸出数の増加を図る。

2 岡山県公民館連合会 ―研修会―

- 事業名 岡山県公民館連合会研修会
- 趣 旨 公民館職員の資質、生涯学習・社会教育に係る知識・技能の向上等を図る。
(※研修会ごとに具体的な趣旨を設定)
- 実施日 <第1回> 令和7年 5月30日 (金)
<第2回> (井原市) 令和7年 6月24日 (火)
(真庭市) 令和7年 6月25日 (水)
<第3回> (倉敷市) 令和7年12月 4日 (木)
(美作市) 令和7年12月 5日 (金)
<第4回> 令和8年 1月27日 (火)
- 対 象 公民館職員、生涯学習・社会教育担当者 等
- 参加人数 <第1回> 74名
<第2回> 40名 (井原市：26名、真庭市：14名)
<第3回> 30名 (倉敷市：18名、美作市：12名)
<第4回> 43名
- 内 容

<第1回> 5月30日 (金)

内 容	講 師
【講義】「暮らしの喜びをともに創り出す公民館 ～目の前の時代と人に向き合う公民館に向けて～」	九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門 教授 岡 幸江 氏

第1回研修会に先立って開催された午前中の総会では、市町村の県公連理事や代表者、会員等が出席し、令和6・7年度岡山県公民館連合会役員(案)、令和6年度事業報告(案)及び決算(案)、令和6年度監査報告、令和7年度事業計画(案)及び予算(案)について議事が行われ、原案通り承認された。また、優良公民館関係職員表彰が行われ、19名の方が受賞された。



午後の研修会では、講義で公民館の役割や在り方について、教育的アプローチや学習の主体が住民であること、住民の学習や暮らしを発展させることの大切さについて学んだ。研修後半には市町村の社会教育・公民館活動に関わる行政担当職員、各公民館の館長・主事等のグループに分かれて、岡先生の著書「ポストコロナの公民館」の内容をテーマに情報交換を行った。

参加者から、「住民がその土地で生きる喜びや学びの権利を自分たちで獲得できるようなサポートができればよいと思う。」「『希望をつくる場所』という公民館の位置づけに感銘を受けるとともに、果たす役割の大きさに驚いている。」「見えなくなったものを見る学びを意識し、今後も『つなぐ』をキーワードに努力していきたいと思う。」などの声があり、公民館の役割について理解を深めることができた。



<第2回> (井原市) 6月24日(火) (真庭市) 6月25日(水)

内 容	講 師
【講義】 「失敗をおそれず やってみたいをやってみよう！」 【演習】 「講座づくりをやってみよう」	大阪府大阪狭山市立公民館 チーフ 小松 茂美 氏

講座づくりをテーマとした。講義では、講座づくりの際に、対象者や目的を明確にすることの大切さや自分ごと（自分自身の好きなことや関心があること）を掘り起こして自分たちごと（地域の課題につながるもの）を見つけることなどについて学んだ。また、個人での活動やグループワークを取り入れながら、豊富な実践を交えて公民館の役割等について話をしていただいた。

午後の演習では、参加者が自館の地域の課題を捉え、目指す地域像や住民の姿を考え、住民の主体性を育むことを目的として、講座づくりに取り組んだ。講義の中で学んだ“自分たちごと”になるよう、関心があることや住民の声を取り入れながら講座の内容を考え、内容を他のグループと共有し、ブラッシュアップを行った。

参加者から

「なんとなくで進めてしまいがちだが、今一度ターゲット・目的を踏まえた活動をしたい。」「今は利用者のみなさんが主体的に計画して運営まで行うという形で実施できていないが、そこまでいけたらと思う。」「自分の発表に対するコメント・アドバイスをもらえたので、ブラッシュアップしていきたい。」



<第3回> (倉敷市) 12月4日(木) (美作市) 12月5日(金)

内 容	講 師
【講義】 「社会教育事業における評価の意義と方法」 【演習】 「講座ごとの評価を考えよう」	広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美 氏 文教大学人間科学部 教授 金藤 ふゆ子 氏

事業や講座の評価をテーマとした。講義では、講師2名を迎え、1日ずつ担当いただいた。なぜ評価は必要か、目的や目標を明確にする大切さ、評価の方法と活用について、お話しいただいた。

演習では、現在実施している講座や実施予定の講座について、目標に立ち返り、どんな視点で達成を評価するかを考えた。評価について、あまり意識していなかったが、学びを保証するために重要なものだと学んだ。

参加者から

「評価の必要性がよくわかり、将来につながる評価をしていくことが大切だとわかった。」「評価を行うことで次の目標・事業につながっていくということがわかった。」「事業の目標から評価につながる見直しが見直しができた。来年度の事業に評価の観点を入れる際に見直しを行いたい。」



<第4回> 1月27日(火)

内 容	講 師 等
<p>①第8回「公民館職員が選ぶ！講座アワード」受賞館によるトークセッション</p> <p>②令和7年度をふり返る（情報交換）</p> <p>③第9回「公民館職員が選ぶ！講座アワード」表彰式 （エントリー：67館、投票：238館）</p> 	<p>①トークセッション発表公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津山市広野公民館（グランプリ受賞公民館） ・津山市院庄公民館（準グランプリ受賞公民館） ・岡山市立高島公民館（3位受賞公民館） <p>③受賞公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランプリ（20票獲得） 「中学生ボランティアグループ『THANK-FULL』～中学生がつくる公民館講座～」 （岡山市立一宮公民館） ・準グランプリ（15票獲得） 「ふれあい水田米作り体験～田植え・稲刈り・脱穀・縄ない～」 （笠岡市北川公民館） ・第3位（11票獲得） 「高校生が案内する玉島の町とソウルフード」 （倉敷市玉島西公民館） 「かがみの未来じゅく」 （鏡野町立中央公民館）

第8回「公民館職員が選ぶ！講座アワード」受賞館によるトークセッションでは、受賞館が講座を企画したきっかけや講座を通じた地域の変化、講座づくりで大切にしていることなどについてお話しいただいた。

情報交換では、トークセッションの内容を受け、参加者が自館で「だれと」「何をして」地域や住民が「どうなるか」を話し合い、来年度に向けた自館の取組を検討した。

第9回「公民館職員が選ぶ！講座アワード」は、他の公民館の取組を知ったり、刺激をもらったりしながら互いにモチベーションを高め、各館の講座内容の向上につながる場となるよう開催し、67の講座の中から得票数の多かった4館を表彰した。

参加者から

「たくさんの意見が聞けて、地域でも生かせるものもあり、とても楽しかった。」「色々なものにアンテナを向け、日々公民館に集まってくださる方からの何気ない話の種を今後の講座・活動につなげていきたいと、気持ちを新たにできた。」「今年度は講座アワードにエントリーしていないので、来年度は是非エントリーしようと思う。」



■成果と課題

本年度は、公民館の役割や公民館職員の在り方を見つめなおすとともに、新たに事業評価に関する研修も行った。4回の研修会をとおして、各館の地域課題の解決や人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた公民館活動の計画や充実を支援し、公民館職員の資質・能力の育成を図った。また、意見交換等をとおして県内公民館関係者のつながりづくりを支援した。来年度は、公民館職員のニーズを踏まえた研修の実施を目指す。また、おすすめ講座は、108の講座が提出され、その中から過去最多の67の講座が「公民館職員が選ぶ！講座アワード」にエントリーされた。その講座の内容からは、各館が工夫を凝らしながら「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に向けて取り組んでいる様子うかがえた。

Ⅲ 生涯学習・社会教育に関する調査研究

■事業名 「生涯学習に関する意識調査」に係る県民意識調査 (R6～R7)

■趣 旨 岡山県民への調査を行うことで、県民の生涯学習や今日的な課題に関する意識などについて、基礎データを蓄積して、全県的な傾向を把握するとともに、その結果を県の生涯学習施策に反映させ、より一層の生涯学習社会の推進と充実を図るために実施する。

■内 容

岡山県生涯学習センターでは、平成9、14、19、24年の4回「生涯学習に関する県民の意識調査」を実施した。4回の調査は、県民が家庭や地域社会において行う生涯学習に関する意識や希望を把握し、これからの岡山県の生涯学習を進めるための基礎資料を得ることを目的として行われた。

令和6年度に「生涯学習に関する県民の意識調査」を約10年ぶりに実施した。岡山県民への調査を行うことで、県民の生涯学習や今日的な課題に関する意識などについて、基礎データを蓄積し、全県的な傾向を把握する。そして、本県の生涯学習推進の拠点施設として、生涯学習施策に反映させ、より一層の生涯学習社会の推進と充実を図るための基礎資料とする。

結果や分析・考察等をまとめ、全国の生涯学習施策担当課や生涯学習センター、市町村や関係団体、教育庁内に周知する。また、完成したデータは県生涯学習センターホームページよりダウンロードできるようにし、関係者の生涯学習についての理解を深め、その生涯学習の推進を図る。

■成果と課題

令和6年度、令和7年度にかけて、生涯学習に関する現状や意識などを収集、分析して岡山県の生涯学習の振興を図るための基礎資料を得ることを目的として、「生涯学習に関する意識調査」に係る県民意識調査を実施した。

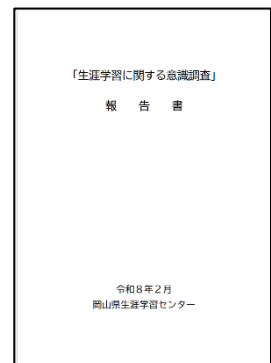
「学習が必要だと思いますか」という問いには、「必要である」と回答した県民の方は約87%であり、学習の必要性を感じられている方が大多数であることがわかった。

しかし、「最近1年間に学習を行ったことがありますか」という問いには、「学習を行ったことがある」と回答した方は約56%であった。「必要である」という回答と約31%の差があることがわかった。学習の必要性を感じられているが、実際に行っている方は少ない現状がわかった。

また、「学習を行いたくないと思う理由」について聞いた問いには、「忙しくて、時間がとれない」と回答した方は約37%、「やりたいことがない」と回答した方は約32%、「必要を感じない」と回答した方は約30%であった。

この報告書の考察を岡山大学大学院 教育学研究科 副研究科長 教授 熊谷 慎之輔 氏に執筆いただき、この調査から見えることをまとめいただいている。

この報告書をインターネット上で公開することで、社会教育・生涯学習に携わる関係者の理解を深めたり、関係者が事業や活動に取り組む際に参考にしたりすることで、岡山県全体の社会教育・生涯学習の推進を図る。



IV 科学に関する学習機会の提供

1 コズミックカレッジ

■事業名 コズミックカレッジ

■趣 旨 科学教育として宇宙をテーマに、観察、実験、工作などの活動を通して、科学の楽しさや不思議さに触れ、科学への関心や探求意欲を喚起し、子どもたちの豊かな心を育み、好奇心、冒険心、匠の心を備えた創造的な青少年の育成を目指す。

■実施期日 令和8年1月12日（月・祝）

■対 象 小学校3年生～中学生

■参加人数 26名

■内容・講師

内 容	講 師
「“星砂”ってなんだろう？」 ・地球、月、太陽の大きさと距離あてクイズ ・3Dメガネを使った平面プラネタリウム ・星砂を使った実験工作	龍谷大学政策学部 教授 船田 智史 氏

参加者の声

- ・宇宙の研究がまだ現在進行形で進んでいることに驚いた。宇宙には壁があるのか調べてみたい。
- ・地球、月、太陽の大きさと距離のクイズがおもしろかった。こんなふうに考えたことはなかったの、とても新鮮だった。
- ・3Dメガネの平面プラネタリウムが楽しかった。このイベントで初めて知る天体もあった。
- ・星砂を薄い塩酸に入れたら、泡が出ておもしろかったし、不思議だった。

■成果と課題

実施後のアンケートでは、『「コズミックカレッジ」には満足しましたか?』の問いに対して、全員が肯定的な回答であった。実験や工作などの活動を通して、科学の楽しさや不思議さに触れ、科学への関心や探求意欲を喚起することができた。

コズミックカレッジは、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の協力を得ることで、実施できる事業であるが、JAXAと連携する実施機関が多くなってきたことから、JAXAが全ての実施機関に対して手厚い対応をとることが難しくなっている。自力でできるところと協力を得るところを整理しながら、充実した活動内容となるよう工夫する必要がある。

宇宙には、子どもの意欲や興味を高める素材が多くある。参加者からは、「宇宙のことをたくさん知ることができた。」「また、体験したり、調べたりしたい。」「来年も参加したい。」などの声が多いこともあり、今後も参加者が満足できる内容を検討し、継続して事業に取り組んでいきたい。



2 「岡山県宇宙の学校®」（宇宙の学校指導者セミナー）KU-MA連携

■事業名 岡山県「宇宙の学校®」

■趣 旨 子どもの心に自然と宇宙と生命への限らない愛着心を呼び起こし、好奇心・冒険心・匠の心を豊かに備えた明るく元気な子どもを育てることを目的として、宇宙や自然科学をテーマにした話と実験・工作などを行う岡山県「宇宙の学校®」を開催する。

■実施日 令和7年7月13日（日）～令和8年2月8日（日）

■対 象 小学生とその保護者

■内 容

回	日 時	内 容	講 師	参加人数
指導者 セミナー	6月1日（日） 10：00～16：00	「宇宙の学校」の概要 岡山県「宇宙の学校」で使用す る宇宙教育教材の説明と演習	KU-MA副会長 稲葉 茂 氏	16名
第1回	7月13日（日） 10：00～12：30	開校式 オリエンテーション 熱気球	KU-MA副会長 並木 道義 氏	36家族
第2回	8月24日（日） 10：00～12：30	望遠鏡 葉脈標本でしおりを作ろう	KU-MA会長 中村 茂 氏	34家族
第3回	12月7日（日） 10：00～12：30	大気圧を感じてみよう 紙とんぼ	KU-MA講師 江崎 士郎 氏	24家族
第4回	2月8日（日） 10：00～12：30	風見鶏、かさ袋ロケット レポート発表会 閉校式	KU-MA講師 稲葉 茂 氏	29家族

※指導者セミナーは、宇宙教育に関心のある県民、「宇宙の学校」のスタッフ・ボランティアが参加

■成果と課題

本年度は、昨年度と同様に、体育館にブルーシートを敷き、グループに分かれ、「宇宙の学校」を開催した。参加者からは、「お友達もできて、一緒に協力して熱気球を作ることができて楽しかった。」「あれだけの材料で望遠鏡ができるなんてびっくりした。」「ロケットは、重りが真ん中にあると上手く飛ぶと思ったけど、前の方に重りがあると良いことが分かった。」「家や学校で体験できないことを、知ったり体験できたりできて良かった。宇宙について興味を持った。」「簡単過ぎず、大人と子供がちょっと必死に取り組むことができる最高の内容だと思う。」等の感想があった。子どもたちの科学的なものの見方や考え方が育成されただけでなく、参加者同士で活動することの楽しさや、家族で学ぶことの意義を実感している家族が増えた。

「宇宙の学校指導者セミナー」では、「広い意味での宇宙教育を学ぶことができた。自分が活動する際にこの学びを活かしていきたい。」「これからの宇宙教育はどのように進めていくのが理想的なのか、セミナーで多くのヒントをいただいた。」等の感想があった。宇宙の学校でのボランティアスタッフや指導者として活動する際の安全面への配慮や注意すべき点、作業中のアドバイスの仕方など、演習を通して学ぶことができ、充実したものとなった。

今後も引き続き、「宇宙の学校」を実施することで、子どもたちの科学への関心や探求意欲を喚起するとともに、スクリーニングや家庭学習を通して、親子のふれあいの時間の創出を図りたい。また、「宇宙の学校指導者セミナー」の実施により、様々な立場の県民が宇宙教育を学び、指導することができる人材の育成を行っていきたい。



3 パブリックビューイング

■事業名 パブリックビューイング

■趣 旨 岡山県教育委員会と独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）との協定に基づく「普及啓発活動」の一つとして、インターネットを通じて生中継された映像を、県民一般を対象とする参加者全員で一緒に観覧するパブリックビューイングを開催する。

■対 象 県民一般

■場 所 交流棟 交流ロビー

■内容・日時・参加人数 本年度の実施なし

■成果と課題

ライブ中継の日時の情報が直前まで把握できないため、JAXAホームページなどをこまめに確かめるなどして、早めに情報を把握できるようにしていくことが必要である。情報を注視するとともに、早めの広報を行う。また、本年度のサイピアのプラネタリウムの更新により、ライブ中継など外部からインターネットを介した映像も自在に映し出せる機能が付与されたことから、来年度はサイエンスドームでパブリックビューイングを行う予定である。

岡山県生涯学習センター

〒700-0016 岡山市北区伊島町3-1-1

TEL 086-251-9751 (振興課)

URL <https://www.pal.pref.okayama.jp/>

e-mail syogaise05@pref.okayama.jp

